

景況レポート

(5月分・情報連絡員80名)

全体景況DI値は3ヶ月連続同数値

【概況(全体)】

5月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査7.5%)、「悪化」が35.0%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較し変化はなかった。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、製造業で東北・北海道ブロック平均を上回ったものの全国との比較では本県の景況DI値は依然として低い水準での推移となった。

【業界別の状況】

前月に引き続き、鉄鋼・金属や建設業の一部で好転割合を維持しているものの依然として食料品製造業及び商店街では回復傾向が見られない状況にあり、特に収益状況DI値については製造業、非製造業ともに-37.5と悪化の傾向が続いている。

なお、全体の景況感、原材料価格や人件費が高騰するなど、経営コストの上昇圧力が強い環境下において、急激な原油価格上昇が経営を直撃したこと等により、中小企業の景況感、総じて悪化している。広範な業種において労働力確保が困難な状況が続いており、中小企業にとって最重要課題の一つとなっている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-27.5	-17.6	-25.6
製造業	-21.9	-12.1	-22.9
非製造業	-31.2	-21.7	-27.0

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

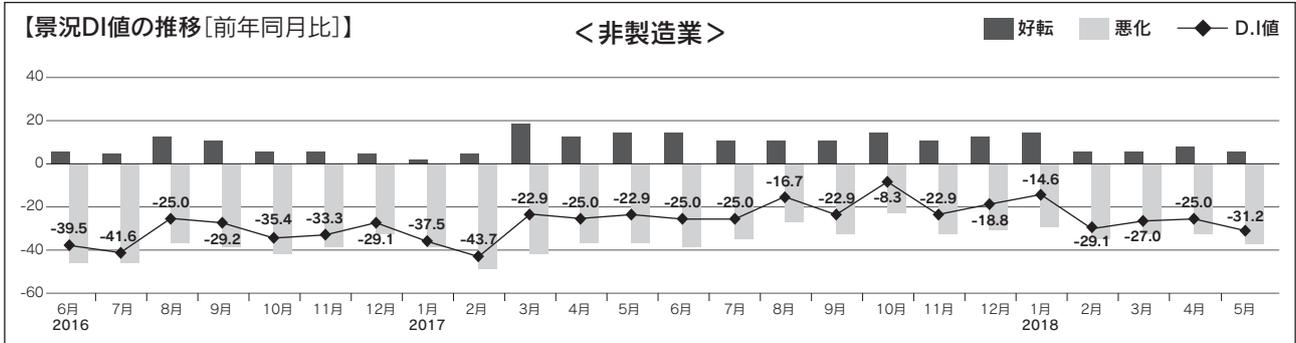
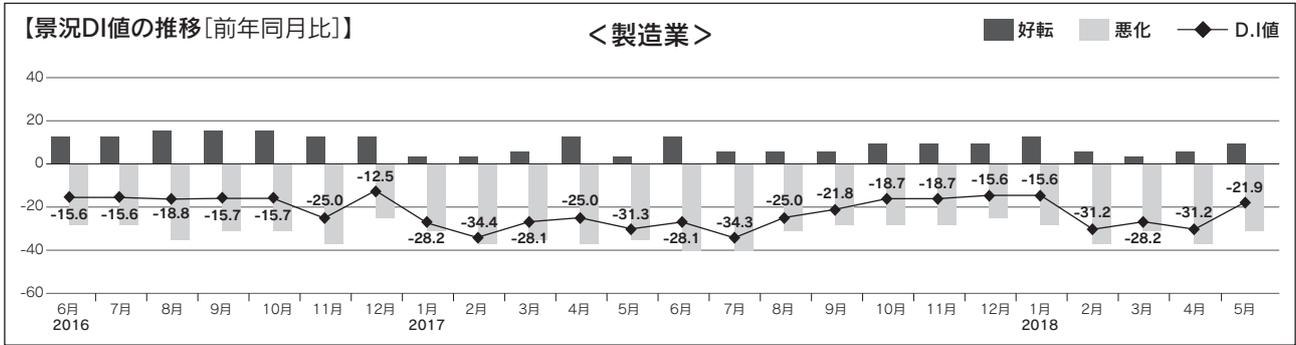
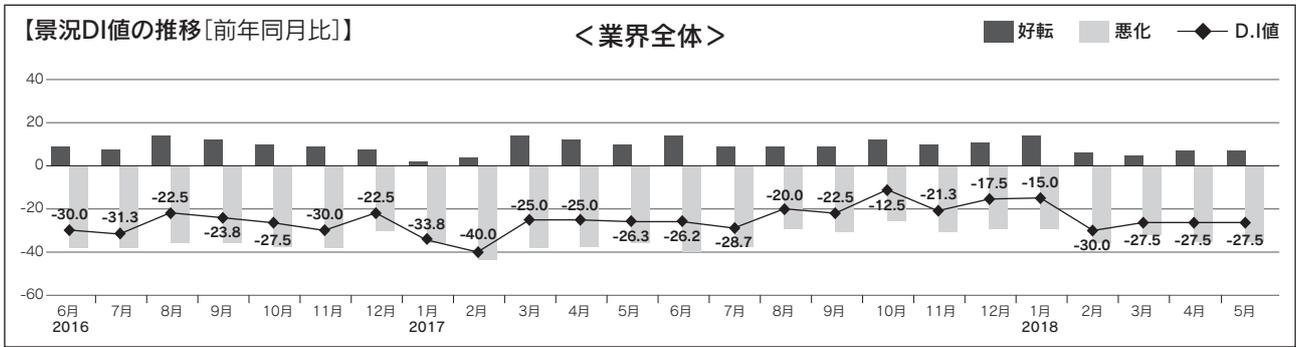
【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30超 10未満
 雨 △30以下
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	前月同様、売上に大きな変化はない。スーパー、コンビニへの納入競争が激化し、勝ち抜くのが厳しい状況にある。
食料品 (精穀・製粉)	連休明けの月中旬から例年売上が落ち込む時期ではあるが、今年は特に顕著だった。加工用米不足による原料価格の上昇により収益状況は悪化している。
繊維工業 (ニット)	前年並みの受注状況に落ち着いてきた。若干急ぎのスポット発注や新規の引き合いが継続している。おそらく、店頭売りの状況が改善したのではなく、国内縫製企業全体の人手不足による生産パワーの低下によるものと思われる。
繊維工業 (繊維)	雇用人員の減少による人員不足で生産数量が低下し、受注機会の損失が出ている。
木材・木製品 (一般製材)	製品は生産量も販売量も前年並みに推移しているが、原木は大雨による林道の決壊等から出材量が減少しており原木価格は上昇気配にある。加えて、原木の安定確保に不安がある。
木材・木製品 (木製家具)	引き合いはある程度あるものの秋にかけて成約となる案件ばかりではなく、規模や金額で短期の操業期間を埋める案件に関わる事業者が多いようである。現状の引き合いは一時的なものとしての成果にしかない。
木材・木製品 (外材)	5月は秋田港に北洋材1,271m ³ の入港があった。新設住宅着工件数が減少に転じたとして一部鈍っていた荷動きも回復基調にある。また、需要も一服している合間に在庫を確保しようとする動きもあって、合板業界は高い生産水準を維持している。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	5月の出荷数量は前年比134.9%であり、4～5月累計で前年比138.5%となった。秋田中央、男鹿南秋地区はブロック工事、風力発電工事、本荘由利地区は災害関連工事、秋田県南地区は地熱発電、ダム関連工事が出荷増となった。
鉄鋼・金属 (機械金属)	5月半ばより受注が増え、更に見積り依頼も各社増加しており、来月以降の実績が期待できる状況にある。
一般機器 (金属加工)	受注面で組合員間のバラつきが見えてきた。ここ半年の受注が見込める企業、受注減少で前年を下回るなどで色分けされている状況である。材料の値上がりりが収益に響いてきている。



【業界の声】 ~非製造業~ (回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	5月に入り鉄価格が5回上がり、トン単価3,500円上昇した。昨年12月末以降、中国が雑品スクラップの輸入を規制しており、業界内では今後の動向を注目している。
卸売業 (古紙)	古紙全体の回収量は53,560kgで前年同月比90.2%であった。減少傾向が続いており、また、雑誌価格については1kgあたり2円下落している。
小売業 (ポイントカード)	今年度に入り既に2店舗の退会があり、新規加入店舗を見つけるのも容易ではない。昨年同月比では一桁台のマイナスである。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり148円60銭で前月比4円90銭、軽油は1ℓあたり127円50銭で前月比4円20銭、配達灯油18ℓは1,671円で前月比57円とそれぞれ値を上げた。原油価格の大幅な上昇により末端価格も値上げとなった。元売仕切価格改定に末端価格が対応できず、販売業界としては収益的には悪化となった。
商店街	まちゼミ参加店には講座に訪れる人で活気が出ていたが、全般的には来街者の減少は続いている。一方、GWに合わせて国内旅行者、来日外国人の姿が見られるようになっており、取り込みの努力が必要だと思われる。(大館市) 連休中は、居酒屋などの飲食店の客足が多かったようである。その他の業種はいつもどおり閑散としている状況にあった。(湯沢市)
サービス業 (旅行)	国内80.2%、海外71.0%と低調であった。例年5月は低調であるが本年は更に低調であった。大型連休の取扱いが4月に計上されたことの影響の反動と思われる。6月以降の動向に不安視はない。
建設業 (電気工事)	公共工事や大きな物件も無く、近年では最も受注の少ない5月となった。一般住宅は落ち込みはないもののハウスメーカー主導のため収入が少ない。
運輸業 (トラック)	軽油価格が前年同月比較では18.5円/ℓの上昇となっており、この状態が続くと収益面で危機的状況に近づいている。
その他 (砂利)	ダム関連等で細骨材の出荷が増えつつあるが、他の骨材の荷動きは相変わらず鈍い。